

氏名	江原弘貴
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博甲第 5430 号
学位授与の日付	平成 28 年 12 月 27 日
学位授与の要件	医歯薬学総合研究科社会環境生命科学専攻 (学位規則第 4 条第 1 項該当)

学位論文題目	Clinical Characteristics of <i>Stenotrophomonas maltophilia</i> Bacteremia: A Regional Report and a Review of a Japanese Case Series (マルトフィリア感染症の臨床的特徴に関する研究)
--------	--

論文審査委員	教授 松下 治 教授 森松博史 教授 草野展周
--------	-------------------------

### 学位論文内容の要旨

致命的な院内感染症の一つとされる *Stenotrophomonas maltophilia* 菌血症 (SMB) の本邦に於ける臨床的特徴を明らかにするため、岡山大学病院と津山中央病院で 7 年間の SMB 症例の診療記録を後方視的に調査して本邦既報と併せ解析した。合計 181 人 (男性 110 人、女性 71 人) が抽出され、背景に血液がん (36.5%)、固形がん (25.4%)、好中球減少症 (31.5%) が認められた。全症例の 56.9%と本症例の 35.4%で SMB 発症前のカルバペネム投与歴があった。本症例の 63.6%が加療され、非生存例でより広域の抗菌薬が投与されていた傾向にあった。多変量解析の結果、Charlson Comorbidity Index (2011 年版) (OR 1.75 [1.11-2.75] ;p=0.015) と気管内挿管 (OR 12.6 [1.62-97.9] ;p=0.016) が死亡率と関連した。セフトラジジムに一部耐性だった一方、ミノサイクリン、ST 合剤、フルオロキノロンに感性だった。30 日・90 日死亡率は 37.5%・62.5% だった。この研究により、本邦に於ける SMB の臨床的特徴は諸外国既報と類似していることが明らかになった。臨床医はカルバペネム投与中の *S. maltophilia* によるブレイクスルー感染症に注意すべきである。

### 論文審査結果の要旨

*Stenotrophomonas maltophilia* (マルトフィリア菌) は、院内感染症の主要な起因菌である。本邦における本菌感染症の臨床的特徴を明らかにするため、岡山大学病院と津山中央病院における *S. maltophilia* 菌血症 (SMB) の 181 症例を後方視的に調査し、本邦既報と併せて解析した。症例の背景には悪性疾患や好中球減少症が認められ、カルバペネム投与歴を持つ場合が多かった。多変量解析により、Charlson Comorbidity Index と気管内挿管が死亡率と有意に相関していた。本菌はセフトラジジムに一部耐性であったが、ミノサイクリン、ST 合剤、フルオロキノロンに多くが感受性を示した。30 日死亡率は、37.5% であった。カルバペネム投与中は、本菌感染症に特に注意を払うべきである。

この発表に対し、本菌感染症は呼吸器感染症が多いにもかかわらず菌血症を研究対象とした理由、調査対象者における中心静脈カテーテル (CVC) の使用頻度、本菌感染時の CVC 抜去の意義と管理指針、菌血症と診断した根拠、挿管患者における呼吸器感染と菌血症の推定頻度、メタロ-β-ラクタマーゼを有しカルバペネムが無効であることの多い本菌に対する抗菌薬の適応、本菌感染症を防ぐために有効な措置について質問があり、本研究者はいずれの質問にも的確に回答した。本研究は、カルバペネム投与時のマルトフィリア菌感染症に注意を喚起するとともに、その予防策にも示唆を与える重要な研究である。

よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。